



刈谷市の『国際化・多文化共生』かわら版

Vol.8 / FREE

# KARIYA GLOCAL LETTER

『刈谷市国際化・多文化共生推進計画』(2013年3月策定)に掲げた3つの重点協働プロジェクトの取り組み状況を報告する広報紙

## 【刈谷市国際化・多文化共生推進計画】第2期重点協働プロジェクト1年目(2015年度)報告



ねんど あら かりやし こくさいか たぶん かきょうせい すす ぶろじえくと  
**2015年度から新たに、刈谷市の国際化や多文化共生を進めるための3つのプロジェクト**  
 かねんけいかく はじ ねんめ おこな たっせい しょうかい  
**(3カ年計画)を始めました。1年目に行ったことや達成したことを紹介します！**

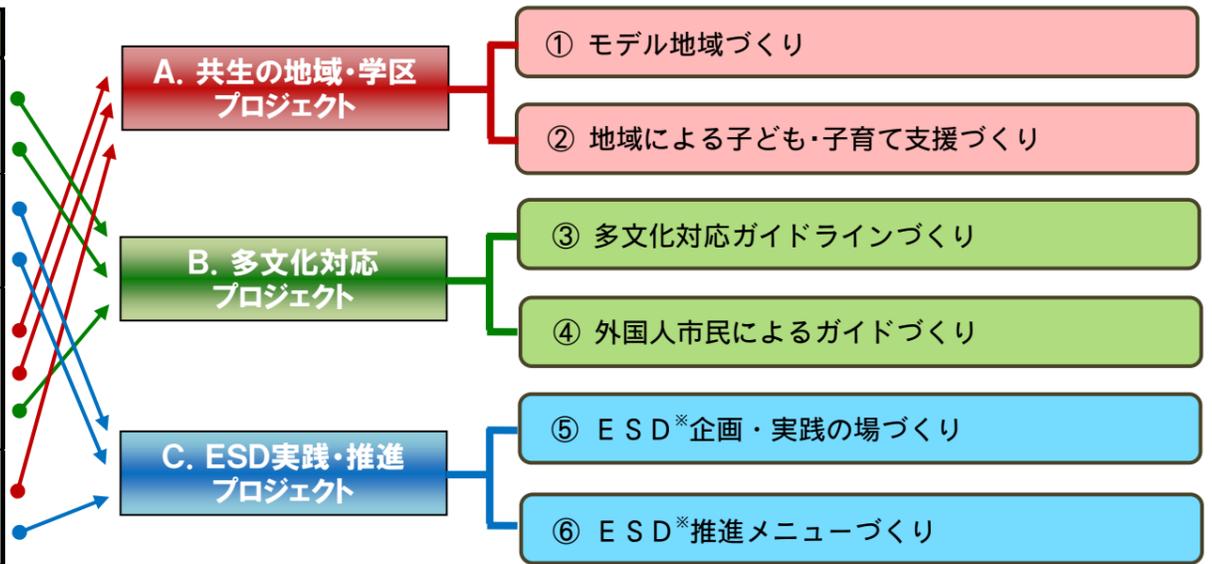
### ■ 新たなプロジェクトの全体像 「A. 共生の地域・学区プロジェクト」「B. 多文化対応プロジェクト」「C. ESD実践・推進プロジェクト」

2014年度に、刈谷市国際化・多文化共生推進計画の第1期(2012~14年度)の取り組み施策の成果と課題、および重点協働プロジェクトの総括を行いました。それを踏まえ、関係者による委員会および市民等の意見を聞き、計画の4つの目的を遂行するため、第2期(2015~17年度)に力を入れて関係者が協力して実施するプロジェクト=「重点協働プロジェクト」を次のとおり企画しました。

#### ● 第2期重点協働プロジェクト ●

※ ESD…持続可能な開発のための教育

計画の目的	プロジェクト化の方向
多様性を成長につなげる	外国人市民の参画・互助 ユニバーサルなまち
地球規模の共生をすすめる	出会い・交流・国際理解 ESD*・国際協力
すべての人の人権をまもる	地域での助け合い 外国につながる子どもの人権 公共サービスにおける人権
共存・協働のまちをつくる	地域での協働 企業(人材)の参画



### ■ A. 共生の地域・学区プロジェクト 活動紹介

本プロジェクトのうち「①モデル地域づくり」を進めるため、第1期から引き続き、外国人市民が市内で最も多い一ツ木町で、多様な人が集える共生の地域の拠点である「ワールド・スマイル・ガーデン(通称「ワールテン」)」の活動を行いました。ワールテンは、地域の住民が中心に企画・運営しており、公益財団法人愛知県国際交流協会、刈谷市が協働(支援)しています。

2015年度は、ワールテンの目標として、「①地域の情報交換の場、②多様な人同士の交流の場、③防災や食育に役立つ場」にすることをめざし、主に以下のことを行いました。誰でも参加できますので、関心にある方はFacebookサイト(QRコード参照)をご覧ください。



#### 誰もが参加できる田んぼや畑の共同運営

2年目に入った畑では、季節に合わせた野菜づくりをしています。フィリピン、中国、ブラジルの野菜コーナーも設けました。畑に脇の花壇では色とりどりの花を咲かせています。今年度からは新たに田んぼをお借りし米づくりも始めました。ワールテンでは、多様な国の人、多様な世代、多様な野菜、多様な生き物が共にある豊かな場になってきています。

#### 地域イベントの開催、より良くするための対話や学び

収穫祭をはじめ、田植えや稲刈り、案山子づくりなど田畑にまつわるイベント、目標に掲げた「防災の場」にするため空き缶を用いた炊飯体験、ロケットストーブの作り方実演なども行いました。各イベントには30~60人が集まりました。また、月1回実行委員会を開き運営について対話するとともに、有識者を招いた勉強会、他都市の事例視察を行い、活動をより良くしていこうとしています。



※「GLOCAL」は、GLOBAL(地球規模)とLOCAL(地域的)を合わせた造語で、「地域における国際化・多文化共生」、「地球大に考え・地域で行動」という意味が込められています。

## ■ B. 多文化対応プロジェクト 活動紹介

本プロジェクトのうち「③多文化対応ガイドラインづくり」の目的は、刈谷市役所の各課各職員の対応や発信をよりよく統一し、外国人市民など多様な人たちに、行政サービスを気持ち良く平等に届けられるようにすることです。

2015 年度は、庁内の関係課の課長補佐クラスの職員が集まり、関係課へのアンケート調査、外国人相談員へのヒアリング、他都市の先進事例調査を行いながら、多文化対応ガイドラインを考えるうえで検討すべき本市の課題を右記のとおりまとめました。

また、ガイドラインに盛り込む項目(案)を次のとおり設定し、その内容について検討しました。

- 1) 多文化対応の心構え
- 2) 多言語窓口対応の方針
- 3) 多言語情報提供の方針



## 庁内の外国人市民との関わり・対応に関する検討課題

### 【心の壁】

- ① 外国人市民への対応姿勢の良いところを伸ばし、残念な対応をなくす

### 【理解の壁】

- ② 日本の制度やルールに馴染みがない外国人市民に理解を促す
- ③ 生命・財産等に関わる重要事項を確実に伝え理解を促す
- ④ 差別事象への対応

### 【言葉の壁】

- ⑤ 市役所からの通知文書を多言語化する際の配慮
- ⑥ 現在、多言語対応していない母語の国の人への対応
- ⑦ 電話・メールによる問合せ、相談員がいない時の窓口等での対応
- ⑧ やさしい日本語を含む日本語による意思疎通のあり方
- ⑨ 多言語化により伝える情報の範囲
- ⑩ 情報の効果的な発信方法
- ⑪ 外国人相談員への配慮

## ■ C. ESD<sup>※</sup>実践・推進プロジェクト 活動紹介

※ ESD…持続可能な開発のための教育

本プロジェクトのうち「⑤ESD企画・実践の場づくり」は、第1期当初から多様なセクターの参画で企画実施してきた「グローバル・カレッジ」活動です。2015 年度は、市民がより自主的に行えるように支援のあり方を変え、全3回のグローバル・カレッジが開催されました。

本プロジェクトうち「⑥ESD推進メニューづくり」は、企業城下町である本市の特徴を考え、海外経験の企業人やその家族、あるいは仕事、研修、留学など様々な理由で市内に住んでいる外国人市民を「グローバル人材」と位置づけ、学校教育や市民講座などで活躍できるようなモデルプログラムや仕組みを作ろうとする活動です。2015 年度は関係者を集めてモデルプログラムづくりを行いました。また、その一環で、刈谷北高校の教員向けにESD研修を行いました。

### 市民参画による「グローバル・カレッジ」の開催支援

### グローバル人材を活かしたESDプログラムづくり

2015 年度のグローバル・カレッジは、①安心の場（国籍や文化などに係わらず誰もが、気楽に溶け込め、楽しめる場である）、②学びの場（多様な人が、地球と地域のつながりやその課題に気づき、行動へとつなぐ学びがある）、③出会いの場（グローバルな出会いがあり、次につながる関係性ができる）などを必要条件に掲げて、次の3つの講座を開催し、93～100%の満足度の会となりました。

- 1) 9/27 (日) 世界の友達大集合 食べて・遊んで・交流しよう! [81名参加]
- 2) 12/5 (土) 誰でも国際会議～気楽に話そう世界これからどうする [31名参加]
- 3) 2/13 (日) 世界のお祭り～中国編～ [70名参加]



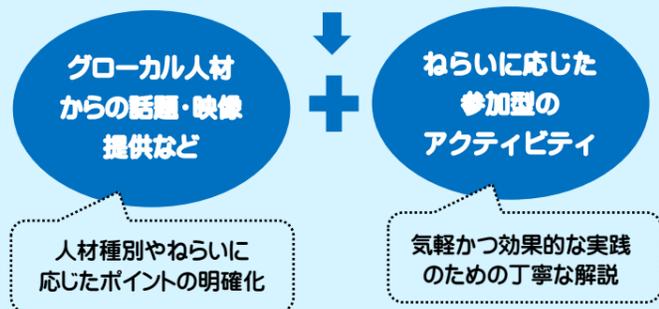
2015 年度の ESD 推進メニューづくりは、関係者を集めた会議を 4 回開催し、次のような「地球市民」を育むための「グローバル人材を生かした ESD プログラム」の試作を行いました。

#### ESDプログラムを通して育みたい「地球市民像」の例

- ・人や世界は多様であること知り、多様な人と対等で丁寧に扱われる
- ・世界と日本（自分）とはつながり、相互に影響し合っていることがわかる
- ・世界や地域には課題があること知り、課題解決について考え行動できる

この ESD プログラムの特徴・ポイントは、単にグローバル人材に講演などをしてもらうだけでなく、学習者が自ら考え、気づき、行動できるような「参加型のアクティビティ」とセットになっているところです。これは、今後学校に導入される“アクティブ・ラーニング”の役にも立つ提案にもなると考えています。

#### グローバル人材を活かした ESD プログラムの構造 (地球市民を育む授業や講座)



### 刈谷北高校でのESD実践教員研修

第1期の「学校 ESD プロジェクト」で高校生向けに提供してきた ESD 授業を教員自らが推進できるように、ファシリテーション、アクティブ・ラーニングの理解と学習者の行動変容を支える ESD のあり方とプログラムについての研修を2回にわたり行い、約 20 名の教員が学ぶことができました。

- 1) 11/17 (火) 対話を引き出し、学び合いを活性化させるファシリテーション
- 2) 11/26 (木) 人権、環境、平和…よりよい未来を築く主体を育てる ESD!



なお、多様にいるグローバル人材の中から、本市の特性を考え、次の人材に関する ESD プログラムづくりを進めています。

#### 本市の特性を踏まえたグローバル人材

- 【外国人】…愛知教育大学等の留学生  
大企業の研修生  
外国からの移民的な市民
- 【日本人】…海外赴任経験のある企業社員  
その配偶者

